

《研究報告》

精神科看護師の臨床判断に関する研究の動向と課題 —国内外の文献レビュー—

牧 茂義¹⁾, 安藤 詳子²⁾

¹⁾ 梶山女学園大学看護学部, ²⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻

要 旨

【目的】精神科看護師による臨床判断に関する国内外の研究の動向と課題を明らかにする。

【方法】1983年から2015年3月までの原著論文を、医中誌Web版で「精神科and看護and臨床判断」、CINAHLとMedlineで「“psychiatric” and “nursing” and “clinical judgment”」をキーワードとし、検索を行った。抽出された論文を精読し、整理した。

【結果】国内外ともに質的手法を用いた観察研究が多く、量的手法や尺度開発研究、介入研究は少なかった。国内では、頓服薬投与場面や保護室入室中の患者に対する看護場面、リスクアセスメントとマネジメントに関する研究に限られていた。

【結論】臨床判断の妥当性を検討する量的研究や臨床判断能力を測定する尺度開発研究が必要である。国内において、患者が地域生活を容易にすごすための看護に向けた臨床判断を検討することが課題である。

キーワード：臨床判断, 文献検討, 精神看護, 精神科, 看護師

I. はじめに

看護師は、患者と家族のより良い健康生活と安寧のために、目的意識をもって効果的な援助方法を選択する。そこには、看護師による判断があり、その臨床場面に適切な方法を用いて看護行為に至る。Tanner (1987) は、臨床判断を「看護師が患者との関係において行う一連の決定である。つまり、何を観察すべきかを決定し、それらの観察から健康問題を確定し、そして適切な行動を決めていくこと¹⁾」とし、Corcoran (1990) は、「適切な患者のデータ、臨床的知識および状況に関する情報から、認知的な熟考および直観的な過程によって、看護ケアについて決定を下すこと²⁾」と定義している。臨床判断は、収集すべき情報の決定からその情報の解釈や推論、解釈や推論に基づいた看護行為の決定までを含んだ概念として捉えられる。

精神看護で用いる情報は、客観的な指標となるものが少なく、患者や家族の内的世界などの主観的情報が多い。そのため、収集すべき情報の決定、情報の解釈や推論、解釈や推論に基づいた看護行為の決定は、各看護師の力量や経験、価値観によって個人差が生じやすく、各看護師の臨床判断の妥当性を検討することが困難であると考えられる。看護師が目的意識をもった効果的な援助を行うためには、患者や家族のより良い健康生活や安寧に向けた的確な臨床判断を行う必要がある。しかし、精神科看護師による臨床判断に関する研究の動向を報告した文献は見られない。そこで、本研究は精神科看護師の臨床判断に関する研究の国内外の動向と課題を文献検討により明らかにすることを目的とし、今後の精神科看護師における臨床判断能力の開発につなげる。

Ⅱ．用語の定義

Tanner (1987) の定義を参考に、臨床判断を「看護師が患者との関係において行う一連の決定である。つまり、何を観察すべきかを決定し、それらの観察から健康問題を確定し、そして適切な行動を決めていくこと¹⁾」とする。

Ⅲ．研究方法

1. 対象文献

医学中央雑誌Web版Ver.5で「精神科and看護and臨床判断」、CINAHLとMedlineで「“psychiatric” and “nursing” and “clinical judgment”」をキーワードとし、原著論文について、1983年から2015年3月までの条件により、和文20件、英文34件を検索した。研究タイトルと抄録を読み、1事例のみの事例報告を除外し、精神科看護師の臨床判断の内容が書かれた文献、和文13件、英文21件を抽出した。

2. 研究方法

対象文献を精読し、調査が実施された国、発表年、研究手法、研究デザイン、調査場面について、分類し文献数を算出した。

研究の視点について、以下の手順で分類した。

- (1) 各文献の研究目的、研究方法、結果において、研究の視点が述べられた部分を抜き出す。
- (2) 抜き出した項目を端的に表すラベル名を命名する。
- (3) ラベルを内容の類似性に従ってグループに分け、そのグループに命名をする。
- (4) 各グループに含まれるラベル数、つまり文献数を算出する。
- (5) 各グループに含まれる文献の研究結果の概要を整理する。

Ⅳ．結果

1. 英文文献における調査がなされた国別の文献数

英国5件³⁻⁷⁾、米国5件⁸⁻¹²⁾、オーストラリア4件¹³⁻¹⁶⁾と、西欧諸国での発表が多く、国内における調査の英文発表は1件¹⁷⁾であった(図1)。

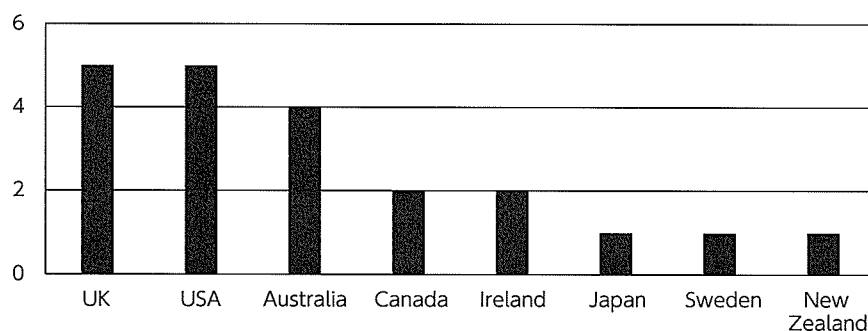


図1 英文文献の臨床判断に関する調査における国別の文献数 (n=21)

2. 文献数の年次推移

国内外ともに1990年代より継続的に発表され、2002年より論文発表の増加がみられる。和文での文献の発表は2008年より少なくなっている（図2）。

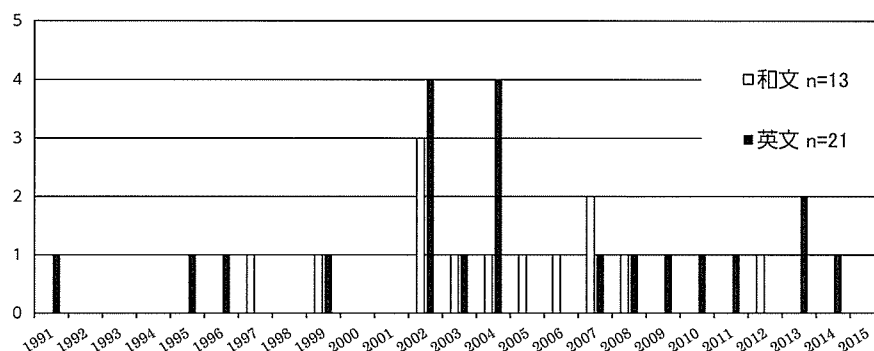


図2 国内外の臨床判断に関する文献数の年次推移

3. 研究手法別の文献数

質的アプローチの文献が和文、英文ともに最も多かった（図3）。和文における分析手法は、質的帰納的分析9件^{18)~26)}、Krippendorffの内容分析1件²⁷⁾、現象学的アプローチ1件²⁸⁾、テーマ分析1件²⁹⁾であった。英文に関しては、質的帰納的分析2件^{17, 30)}、Grounded Theory Approach 5件^{8, 11, 14, 31, 32)}、内容分析2件^{6, 33)}、テーマ分析3件^{5, 16, 34)}、現象学的アプローチは1件³⁾、NVivoという質的分析ソフトウェアを用いたものは1件³⁵⁾であった。

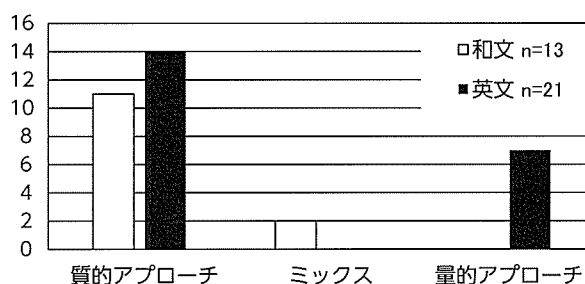


図3 国内外の臨床判断文献の研究手法

4. 研究デザイン別の文献数

研究デザインについて、和文文献では12件^{18, 20-29, 36)}が観察研究で、事例研究は6事例が報告された佐藤（2002）の研究1件¹⁹⁾であった。英文文献では、観察研究17件^{3, 5-11, 13, 14, 16, 17, 30, 31, 33-35)}、介入研究3件^{4, 12, 15)}、尺度開発研究1件³⁾であった（図4）。

5. 臨床判断の調査場面別の文献数（表1）

(1) 調査対象者によって異なる場面

調査場面に関して、研究者が看護場面を参加観察し、判断内容やプロセスがよく説明される場面について面接調査した文献1件¹⁸⁾、印象に残った場面など実際に行った看護場面について調査対象者が想起し、面接調査を行った文献4件^{8, 17, 28, 34)}があった。

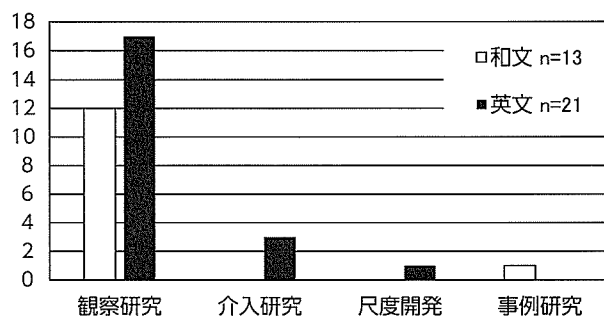


図4 国内外の臨床判断文献の研究デザイン

表1 国内外の臨床判断文献の調査場面

臨床判断の調査場面	和文 (n=13)	英文 (n=21)
調査対象者によって異なる場面	3	2
（看護場面に参加観察後に面接調査）	(1)	
（実際に行った看護場面に調査対象者が想起）	(2)	(2)
研究者が特定した看護場面	10	16
（頓服薬を看護師が投与する場面）	(3)	
（保護室入室中の患者に対する看護場面）	(4)	
（患者の自傷他害のリスクアセスメントとマネジメント）	(2)	(3)
（無断離院のリスクアセスメントとマネジメント）		(1)
（隔離の必要性の判断場面）	(1)	
（外来での看護場面）		(5)
（患者が地域生活を容易にすごすための看護場面）		(4)
（栄養状態の判断場面）		(1)
（境界性パーソナリティ障害患者に対する看護）		(1)
（糖尿病合併患者に対する看護）		(1)
仮想事例における場面		3
（患者の自傷他害のリスクアセスメントとマネジメント）		(2)
（行動制限を提案する場面）		(1)

(2) 研究者が特定した看護場面

研究者が調査する臨床判断の場면을特定し調査したのは、和文において、頓服薬投与場面3件^{20, 26, 36)}、保護室入室中の患者の看護場面4件^{21, 25, 27, 29)}、患者の自傷他害のリスクアセスメントとマネジメント2件^{22, 24)}など、すべて病棟内における看護師の臨床判断に関するもので、英文において、外来での看護場面4件^{8, 11, 31, 32)}、や患者が地域生活を容易にすごすための看護場面4件^{5, 6, 10, 14)}など、患者の地域生活を視野に入れた臨床判断について検討した文献が多くみられた。患者とケアを決定する際の判断を検討した研究の発表は、患者が地域生活を容易にすごすための看護場面の研究Tee（2007）の文献1件⁶⁾であった。

(3) 仮想事例における場面

仮想事例を用いた研究は、英文における患者の自傷他害のリスクアセスメントとマネジメント2件^{5, 7)}、行動制限を提案する場面1件⁹⁾であった。

6. 研究の視点別の文献数と研究結果の概要

臨床判断に関する研究の視点別の文献数（表2、表中の文献数は重複を含む）は、和文、英文

ともに臨床判断に影響を与える要素を明らかにした研究が最も多かった。

(1) 臨床判断に影響を与える要素

臨床判断に影響を与える要素として、患者要因、看護師要因、状況要因、患者-看護師関係要因の4要素が示されていた。

患者要因としては、その場面以前の患者情報^{7, 19, 20)}、その場での患者情報^{19, 20)}、今後の見通し²⁰⁾、現在の患者の行動や機能^{9, 10, 19)}に関する情報が挙げられた。看護師要因としては、看護師の経験²⁶⁾、看護師の価値観^{24, 26, 36)}、看護師の先入観²²⁾、患者に対する日常の気遣いや共感感覚²⁸⁾、専門知識^{20, 35)}が挙げられた。状況要因としては、病棟や集団の文化^{6, 26)}、医療体制^{7, 22, 24)}、グループのコンセンサス¹⁷⁾、患者の居住地^{10, 14)}が挙げられた。患者-看護師関係要因としては、患者と看護師の関係性・相互作用^{17, 20, 24)}が挙げられた。

(2) 臨床判断の構造とプロセス

臨床判断は、「最初の手がかり」、「特定の枠組みで患者を観察し仮説を立てる」、「重要な手がかり」、「仮説の検証」の4つのプロセスを経る⁸⁾といった報告や、「手がかり」、「読み」、「働きかけの選択」、「経験の蓄え」の4局面から構成されている²³⁾といった報告があり、文献により異なった結果が示されていた。

(3) 臨床判断の特徴

看護師の臨床判断は、患者の現在の行動を基に行い、多様であり³¹⁾、文脈からは切り離せず、状況依存的で¹⁷⁾、臨床判断の過程には、患者の病状や病状の影響、危険性などから状況を読み取り援助の方向を判断する過程や患者の力やサポート状況に合わせた援助方法を判断する過程がある¹⁸⁾、と報告されていた。

(4) 臨床判断のタイプ

臨床判断のタイプとして、記述的判断³⁴⁾、因果関係的判断³⁴⁾、評価的判断³⁴⁾、推論的判断³⁴⁾、発展型²³⁾、柔軟型²³⁾、直観型¹⁸⁾など複数のタイプが報告されているが、文献により異なる結果が示されていた。

(5) 臨床判断の妥当性の検討

栄養状態⁴⁾および攻撃性のリスク¹⁵⁾について、アセスメントツールを用いない臨床判断と、アセスメントツールを用いる臨床判断を比較した研究がなされていた。いずれにおいても、アセスメントツールを用いない判断と比較して、アセスメントツールを用いる判断の正確性が報告さ

表2 国内外の臨床判断文献の研究の視点

臨床判断の調査場面	和文 (n=13)	英文 (n=21)
臨床判断に影響を与える要素	10	15
(看護師要因)	(9)	(11)
(患者要因)	(7)	(6)
(状況要因)	(7)	(7)
(患者-看護師関係要因)	(1)	(2)
臨床判断の構造とプロセス	4	2
臨床判断の特徴	4	2
臨床判断のタイプ	2	2
臨床判断の妥当性の検討		2
臨床判断能力向上のための介入		1
臨床判断の前後のケアの種類	1	

れていた。

(6) 臨床判断能力向上のための介入

糖尿病を有する患者への臨床判断に関して、シミュレーターを用いた研修を行うことにより、臨床判断能力が向上したことが報告されていた¹²⁾。

(7) 臨床判断の前後のケアの種類

頓服薬を与薬した後の看護ケアの判断として、薬の説明、内服の意志の確認、安全への援助、不安への援助、継続的な観察、他職種との協働が挙げられていた²⁶⁾。

V. 考察

1. 精神科看護師の臨床判断に関する国内外の研究の動向と課題

精神科看護領域における臨床判断に関する論文は、国外のRegan-Kubinski (1991) の論文発表⁸⁾に始まり、国内外ともに精神科看護領域における臨床判断研究の歴史は浅く、研究されている臨床判断の場面は限られている。文化的な側面や患者の個別性を考慮した臨床判断を検討する必要がある。

研究手法や研究デザインに関し、国内外ともに質的アプローチを用いた観察研究が多く、量的アプローチや尺度開発研究、介入研究は少なかった。特に臨床判断の妥当性を検討する研究において、検討された場面は限られていた。多様な場面における臨床判断の妥当性を検討するような量的アプローチや、臨床判断能力を測定するような尺度開発研究が必要である。質的アプローチを用いた観察研究のみでは、臨床判断の妥当性や臨床判断能力を検討するには限界があり、患者に安楽で有効な看護ケアを提供するためには、看護師の臨床判断の妥当性や臨床判断能力を検討することが今後の課題として挙げられる。

患者とケアを決定する際の判断を検討した研究の発表はTee (2007) の文献⁶⁾にとどまり、国内外ともに患者と共同してケアを決定する際の臨床判断を検討した研究は少なかった。精神医療において、『リカバリー』の概念が重要視されている。リカバリーは、「たとえ病気による限界はあっても、満足し、希望のある、貢献できる生活の仕方である³⁷⁾」と言われている。患者と共に看護ケアを決定することは、患者のリカバリーに向けた支援につながっていく。患者と共に看護ケアを決定する際、看護師はどのような臨床判断を行っているかを明らかにすることが重要である。

臨床判断を検討する視点として、患者目標に沿った支援に対する臨床判断は検討されていなかった。オレムは、セルフケアとは、生命や健康、安寧の維持をするために各個人が自分自身のために積極的に行う活動であるとしている³⁸⁾。患者目標に沿った支援を行うことが、患者のセルフケアを支えることにつながっていく。患者の目標に沿った支援を行うために必要な臨床判断を明らかにすることが今後の課題となる。

2. 国内において必要な精神科看護師の臨床判断に関する研究の課題

地域生活中心での支援がすすめられている西欧諸国において、患者の地域生活を支援する場面における臨床判断に関する研究が比較的多く行われていた。国内においても、精神保健福祉システムは地域生活中心へとすすめられている。しかし、地域生活を支援する際の臨床判断に関する国内文献は見当たらなかった。患者が地域生活を容易にすごすための支援に対する臨床判断を検

討する必要がある。また、長期入院患者の地域移行³⁹⁾や、入退院を繰り返す患者の地域定着に関する課題⁴⁰⁾が指摘されている。地域移行や地域定着に向けた支援に対する臨床判断を明らかにすることで、長期入院患者や入退院を繰り返す患者が地域で安心して生活するという目的意識をもった支援を可能にすると考ええる。

国内の臨床判断に関する研究は、頓服薬投与場面や保護室入室中の患者に対する看護場面、患者の自傷他害のリスクアセスメントとマネジメント場面などに限られており、患者の自律性の回復やその人らしく生きるための支援などの視点は少ない。患者の生活の視点に立った多様な場面における臨床判断を明らかにする必要がある。

臨床判断の妥当性を検討する研究や、臨床判断能力の向上を目指した研究はなされていない。これらを研究するためには、臨床判断に影響を与える要素を整理し、その中から、重要な要素を抽出することによって、臨床判断やその能力に関わる尺度を開発する必要があると考える。臨床判断やその能力に関わる尺度を開発し、臨床判断能力の向上を目指した研究を行うことが重要になると考える。

VI. 本研究の限界と課題

本研究は、国内外の精神科看護師の臨床判断に関する文献検討を行うことにより、臨床判断研究の動向と課題を明らかにした。国外で発表された論文は英文で発表された文献のみを研究対象としたため、英文以外で発表された論文に関しては検討できなかった。

国外で発表された文献について検討するに当たって、その国の医療や政治情勢、文化を考慮する必要がある。本研究においては、それらを考慮せずに研究の動向や課題を考察した。各国の情勢や文化に適した臨床判断に関する研究の動向と課題を明らかにする必要がある。

VII. 結論

1. 精神科看護師の臨床判断を明らかにする質的研究は多く行われている。今後、臨床判断の妥当性を検討するような量的アプローチや、臨床判断能力を測定するような尺度開発研究を多様な場面において行うことが今後の課題である。
2. 患者が安楽で主体的に自己管理できることを目指した臨床判断として、患者と共にケアを決定する際の臨床判断や、患者の目標に沿った臨床判断を検討していく必要がある。
3. 国内において、地域生活を視点にした臨床判断は検討されていない。地域定着を目指した臨床判断や、患者が地域生活を容易にすごすための看護に対する臨床判断を検討する必要がある。

引用文献

- 1) Tanner.C.A.: Teaching clinical judgement, *Annual Review of Nursing Research*, 5, 153-173, 1987;
堀内成子, 片田範子訳, クリニカル・ジャッジメントの教育—文献検索—, 看護研究, 23 (4), 118-130, 1990
- 2) Corcoran S.A.: 看護における Clinical Judgment の基本的概念, 看護研究, 23 (4), 351-360, 1990
- 3) Stein W.M.: The use of discharge risk assessment tools in general psychiatric services in the UK,

- Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing*, 9, 713-724, 2002
- 4) Abayomi J.& Hackett A.: Assessment of malnutrition in mental health clients: nurses' judgment vs. a nutrition tool, *Issues and Innovations in Nursing Practice*, 45 (4), 430-437, 2004
 - 5) Murphy N.: An investigation into how community mental health nurses assess the risk of violence from their clients, *Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing*, 11, 407-413, 2004
 - 6) Tee S., Lathlean J., Herbert L., Coldham T., East B., et al.: User participation in mental health nurse decision-making: a co-operative enquiry, *Journal of Advanced Nursing*, 60 (2), 135-145, 2007
 - 7) Paterson B., Dowding D., Harries C., Cassells C., Morrison R., et al.: Managing the risk of suicide in acute psychiatric inpatients: A clinical judgment analysis of staff predictions of imminent suicide risk, *Journal of Mental Health*, 17 (4), 410-423, 2008
 - 8) Regan-Kubinski M.J.: A Model of Clinical Judgment Processes in Psychiatric Nursing, *Archives of Psychiatric Nursing*, 5 (5), 262-270, 1991
 - 9) Holzworth R.J.& Wills C.E.: Nurses' Judgment Regarding Seclusion and Restraint of Psychiatric Patients: A Social Judgment Analysis, *Research in Nursing & Health*, 22, 189-201, 1999
 - 10) Hampton M.D.& Chafetz L.: Factors Associated with Residential Placement in an Assertive Community Treatment Program, *Issues in Mental Health Nursing*, 23, 677-689, 2002
 - 11) Dearing K.S.: Getting It, Together: How the Nurse Patient Relationship Influences Treatment Compliance for Patients with Schizophrenia, *Archives of Psychiatric Nursing*, 18 (5), 155-163, 2004
 - 12) Wynn S.D.: Improving the Quality of Care of Veterans with Diabetes A Simulations Intervention for Psychiatric Nurses, *Journal of Psychosocial Nursing*, 49 (2), 38-43, 2011
 - 13) Cleary M., Siegfried N. & Walter G.: Experience, knowledge and attitudes of mental health staff regarding clients with a borderline personality disorder, *International Journal of Mental Health Nursing*, 11, 186-191, 2002
 - 14) McCann T.V.& Clark E.: A grounded theory study of the role that nurses play in increasing clients' willingness to access community mental health services, *International Journal of Mental Health Nursing*, 12, 279-287, 2003
 - 15) Griffith J.J., Daffern M., & Godber T.: Examination of predictive validity of Dynamic Appraisal of Situational Aggression in two mental health units, *International Journal of Mental Health Nursing*, 22, 485-492, 2013
 - 16) Grotto J., Gerace A., O'kane D., Simpson A., Oster C., et al.: Risk assessment and absconding: perceptions, understandings and responses of mental health nurses, *Journal of Clinical Nursing*, 24, 855-865, 2014
 - 17) Nakayama Y.: EXPERIENCED PSYCHIATRIC NURSES' CLINICAL JUDGMENT IN EVERYDAY PRACTICES, 聖路加看護大学紀要, 22, 52-58, 1996
 - 18) 田嶋長子：精神科看護者の臨床判断の構造と特徴，高知女子大学看護学会誌，27（1），24-31，2002
 - 19) 佐藤るみ子：精神科病棟において看護婦・士が隔離の必要性があると判断する状況について分析，福島県立医科大学看護学部紀要，4，21-32，2002
 - 20) 矢内里英：アルコール・薬物依存専門病棟における頓用薬使用についての看護判断の特徴と構造，日本精神保健看護学会誌，12（1），113-120，2003
 - 21) 坂江千寿子，佐藤寧子，石崎智子，他：精神科看護師のクリニカルジャッジメントー保護室に入室している統合失調症患者からの要求へ対してー，北海道医療大学看護福祉学部学会誌，2（1），115-124，2006
 - 22) 安永薫梨：精神科閉鎖病棟において患者から看護師への暴力が起こった状況と臨床判断，福岡県立大学看護学部紀要，3，11-20，2005

- 23) 畦地博子, 梶本市子, 粕田孝行, 他: 精神科看護婦・士のクリニカルジャッジメントの構造とタイプ, *Quality Nursing*, 5 (9), 51-61, 1999
- 24) 馬場香織: 精神科急性期病棟における暴力の危険性の察知と看護師の臨床判断, 日本精神保健看護学会誌, 16 (1), 12-22, 2007
- 25) 柴田真紀, 池田明子: 精神科保護室における看護判断—看護者の経験年数に焦点を当てて—, 北里看護学会誌, 3 (1), 27-35, 1997
- 26) 江波戸和子: 精神科急性期における頓用薬の使用状況とそれに関わる看護師の判断とケア, 東京女子医科大学看護学部紀要, 5, 27-35, 2002
- 27) 坂江千寿子, 佐藤寧子, 石崎智子, 他: 保護室入室患者の開放要求に関する精神科看護師のクリニカルジャッジメント—判断に影響する要因に注目して—, 青森保健大雑誌, 6 (2), 9-18, 2004
- 28) 前田由紀子: 精神科病棟の日常における看護師の臨床判断, 日本医学看護学教育学会誌, 21, 3-10, 2012
- 29) 福田亜紀: 行動制限の場面における看護師の臨床判断の特徴, 日本精神保健看護学会誌, 17 (1), 53-61, 2008
- 30) Farrow T.L.: Owning their expertise: Why nurses use 'no suicide contracts' rather than their own assessment, *International Journal of Mental Health Nursing*, 11, 214-219, 2002
- 31) Regan-Kubinski M.J.: Judgment Tasks in Clinical Psychiatric Mental Health Nursing, *Perspective in Psychiatric Care*, 31 (3), 20-24, 1995
- 32) Elliott N.: Mutual intacting: a grounded theory study of clinical judgment practice issues, *Journal of Advanced Nursing*, 66 (12), 2711-2721, 2010
- 33) Magnusson A., Högberg T., Lützén K., & Severinsson E.: Swedish mental health nurses' responsibility in supervised community care of persons with long-term mental illness, *Nursing and Health Sciences*, 6, 19-27, 2004
- 34) ManNeela P., Scott A., Treacy P., & Hyde A.: In the know: cognitive and social factors in mental health nursing assessment, *Journal of Clinical Nursing*, 19, 1298-1306, 2009
- 35) Woods P.: Risk assessment and management approaches on mental health units, *Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing*, 20, 807-813, 2013
- 36) 前川千里, 山崎京子, 橋本喜次郎: 精神科救急病棟における頓用薬の与薬に関わる看護師の判断とケア, 日本看護学会論文集 第38回精神看護, 90-92, 2007
- 37) Charles A. R., Richard J. G.: *The Strengths Models: A recovery-oriented approach to mental health services (3rd edition)*, Oxford University Press, 2012; 田中英樹監訳, ストレngthsモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス (第3版), 金剛出版, 2014
- 38) Orem E. D.: *Nursing: Concept of Practice (4th edition)*, Mosby-Year Book, 1991; 小野寺杜紀訳, オレム看護論 看護実践における基本概念 (第3版), 医学書院, 1995
- 39) 厚生労働省, 2014, 長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策の今後の方向性, <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyo-kushougai-hoken-fukushibu-Kikakuka/0000051138.pdf>, (検索日: 2016年10月5日)
- 40) 田井雅子, 野田智子, 大川貴子, 大竹眞裕美, 濱尾早苗ら: 再入院した統合失調症患者の症状マネジメント習得と支援体制確立に向けたケア, 日本精神保健看護学会誌, 19 (1), 63-73, 2010

The trends and issues in studies about clinical judgment of psychiatric nurses: The review of domestic and international literature

Shigeyoshi Maki¹⁾ and Shoko Ando²⁾

¹⁾ *Sugiyama Jogakuen University School of Nursing*

²⁾ *Department of Nursing, Graduate School of Medicine, Nagoya University*

Abstract

[Purpose] This study aimed to clarify the trends and issues in the research about the clinical judgment of psychiatry nurses.

[Methods] The Japan Medical Abstract Society was used to search original works in peer-reviewed Japanese journals published in Japanese. CINAHL and Medline were used to search original works in peer-reviewed journals published in English. The keywords used to search databases were “psychiatry”, “nursing” and “clinical judgment”. The retrieved papers were reviewed.

[Results] Many observational studies using a qualitative approach were conducted. On the other hand, a quantitative studies, scale development studies and intervention studies are scarce. The domestic research themes were only whether or not to administrate a dose of medicine, how to care the patient in the isolation room and how to practice the risk assessment and the risk management.

[Conclusions] To examine the validity of clinical judgment, the quantitative studies are needed. To measure the abilities of clinical judgment, the scale development studies are needed. In the domestic, we should conduct the research about the clinical judgment for the patients’ well-beings in the community.

Keywords: clinical judgment, literature review, psychiatric nursing, psychiatry, nurses